

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林研究費

事業名 キノコ生産管理技術プロジェクト事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

森林研究所 電話番号：0575-33-2585

E-mail：c25108@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,811 千円 (前年度予算額：1,811 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,811	826	0	0	0	0	0	0	985
要求額	1,811	826	0	0	0	0	0	0	985
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

減少傾向であった岐阜県のキノコ総生産額は、H27年度から上昇傾向を示し、約44億円に届く勢いである。しかし、近年、施設の設計の想定を大きく超える40℃以上の気温が観測され、夏場の高温が原因と考えられる栽培トラブルが発生している。また、単価が高く収益の軸となる冬場のキノコ発生を逃す低温対策が不備な事例も報告され、早急な対策技術の開発が求められている。

そこで、地域の企業などと一体となったネットワーク型の研究体制で、高温時の温度管理基準の確立と低温時の発生促進技術を開発する、県の将来を見据えた戦略的に取り組むべき先行投資的研究である。

(2) 事業内容

○継続研究課題 1 課題

・気候変動等に対応するためのキノコ生産管理技術の開発（R 3～7）

キノコ栽培において、近年の温度環境に適応するために、高温時の発生低下を抑える上限の温度管理基準の決定と冬場の収益性向上に必須な低温発生を促進する技術を開発する。

(3) 県負担・補助率の考え方

試験研究には試行錯誤が伴い、取り組んでも必ず成果が出るとは限らないなどリスクも大きいいため、民間が自ら試験研究を実施することは困難である。よって、県が主体となつて試験研究に取り組む必要がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	201	補助職員報酬、労災保険料
費用弁償	6	補助職員旅費（通勤手当相当）
旅費	151	職員旅費（調査、打合せ、情報収集）
需用費	1,003	試験や調査のための消耗品購入
委託料	450	研究委託
合計	1,811	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 第4期岐阜県森林づくり基本計画（R4～R8）
- ・ 岐阜県林政部研究推進方針に基づいた森林研究所推進計画（R4～R8）

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「第4期岐阜県森林づくり基本計画」及び「森林研究所推進計画」に沿って、①健全で豊かな森林づくりの推進、②林業及び木材産業の振興、③人づくり及び仕組みづくりの推進を柱に、県民・産業界のニーズに応える研究開発を進める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7) 累積	達成率
①製品・技術開発	—	2	2	2	10	30%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	<p>生産施設の温度環境、特に夏場の高温とキノコ発生低下の解析と冬場の低温下の発生量を高めるための技術開発を行った。冬期にアミラーゼを用いたマイタケ栽培で増収効果が見られ、知事会見と新聞等にて広く報道された。</p> <p>指標① 目標： <u>10</u> 実績： <u>1</u> 達成率： <u>10</u> %</p>
令和4年度	<p>アミラーゼを用いたマイタケ栽培において、現地実証箇所を一件追加するとともに、菌床ブロックの環境改善（温度分布等）を図った。また、原木シイタケ栽培でもアミラーゼ増収効果の現地実証を行った。</p> <p>指標① 目標： <u>10</u> 実績： <u>3</u> 達成率： <u>30</u> %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 2	キノコ生産業界に対して、収益性の向上に役立つ情報と技術を提供することで、県内のキノコ生産額の増大が図られ、地域経済の活性化に貢献するため、事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 3	キノコの高温時の温度管理基準、低温時の発生促進技術は、県内すべてのキノコ生産者に役立つ成果である。研究内容や成果は、知事会見、研究成果発表会、県内製造業者などが集まる研修会で積極的に発信しており、生産現場での実証箇所も広がっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	研究課題の計画書や進捗状況を所内で定期的に聞き取りし、軌道修正及び効率化を図っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 キノコ生産業界は、益々産地間の競争激化が予想されることから、さらに収益性の高い技術開発が必要である。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 企業・団体からの相談・要望から得られたニーズに基づき、研究課題の方向性を修正していく必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】